

万田 31 号の解説

1. 本質

(1) Q : 「万田 31 号」を一言で表現すると何ですか？

A : 植物が本来持っている生命力を引き出すものです。

散布やかん水等によって植物は元気に生育します。

(2) Q : 「万田 31 号」の材料や製造法は？

A : 「万田 31 号」は当社が健康食品として製造している「万田酵素」を植物用に開発したもので、比重 1.3、pH 約 4.0 の黒いペースト状です。これは 41 種類の果実類・穀類・海藻類などを原材料として、当社独自の技術で発酵・熟成を繰り返し、3 年以上の年月をかけてつくられた製品です。

(3) Q : 「万田 31 号」は農薬ですか、肥料ですか？

A : 農薬ではありません。広島県に「特殊肥料」として届け出て、認めていただいております。特殊肥料ですが肥料成分は少ないので、通常の肥培管理は行なってください。

2. 作用・効果

(1) Q : 「万田 31 号」を使用すると、どのような作用・効果がありますか？

A : 散布又はかん水・かん注することで植物の活性が高まり、次の様な効果が現れます。

生育の促進（根張りがよくなる等）

増収

品質向上

・食味の向上（糖度、米の食味値）

・ビタミン C など栄養分の増加

・花の色の鮮やかさが向上

障害回復力の増強（台風、冠水、低温等）

日持ちの向上（作物の鮮度保持、老化による食味値の低下が少ない。）

(2) Q : 「万田 31 号」を使用すると無農薬栽培や有機栽培ができますか？

A : 無条件で無農薬栽培を可能にするものではありませんが、「万田 31 号」を使用することにより活性が高まり、作物が元気に生育するので、茶、リンゴ、梨、イチゴやトマト等で病害の防除回数を半減している実例は各地にあります。また、土作りを行い、他の有機資材と併用しながら減農薬栽培や有機栽培を実現している人は大勢いらっしゃいます。

(3) Q : 雑草への影響はありますか？

A : 特に雑草への効果試験は行なっていませんが、果樹園・野菜畑等で「万田 31 号」を使用していると、雑草も元気になったという報告があります。

(4) Q : 殺虫・殺菌効果はありますか？

A : 「万田 31 号」には、直接的な殺虫・殺菌効果はありません。しかし、「万田 31 号」を使用すると生育が盛んになり、病害虫の被害が少なかったという実例が各地から報告されています。

(5) Q : 効果の現われやすい作物は？

A : 永年作物よりは単年度作物の方が、効果の発現が早いようです。しかし、永年作物は連年使用していただくことにより、更に効果が高まる傾向にあります。
施設作物の方が、露地作物よりは現われやすいようです。

3. 使用方法

(1) Q : どのようにして使いますか？

A : 噴霧器などを使って葉に霧状で散布します。
かん水・かん注により植物の根元へ与えます。
播種前に種子を浸漬する場合があります。

(2) Q : 使用する濃度と効果については？

A : 一般的に葉面散布は 10,000 倍の希釈液の使用を基本とし、5,000 ~ 20,000 倍の範囲で使用します。栄養生長が目的の場合には 10,000 ~ 20,000 倍、生殖生長や品質の向上を目的とする場合には 5,000 倍の濃度での使用が基本です。

かん水・かん注する場合、葉面散布と同様の濃度で使えます。

散布・かん水・かん注ともに、水量が多くなる場合は「万田 31 号」の使用量は、1 回につき 10a 当たり 30ml を目安としてください。

育苗期のものや小さいものに対しては、ジョーロ等でかん水すると容易でかつ有効です。

4. 混用

(1) Q : 農薬との混用はできますか？

A : 農薬との混用は、おすすめしておりません。しかし省力化等の理由から、農家の方々は混用して使わざるを得ないのが現状ですが、これまでに混用による薬害の報告はございません。ただし、単剤で使用する事が明記されているもの、また強アルカリ性の資材やホルモン剤とは混用しないでください。

(2) Q : 液肥との混用はできますか？

A : 「万田 31 号」は植物の肥料吸収を高めるので、液肥との混用は効果的です。生育促進に速効性の無機液肥、食味向上にアミノ酸などの有機系液肥、その他吸収しにくいカルシウムや不足しがちなミネラルを含有した液肥など、様々な液肥との混用例があります。

(3) Q : その他の資材との混用・併用はできますか？

A : これまでに混用による薬害の報告はございません。

ただし、これら資材との混用は、互いの性質をよく把握して行なってください。

(4) Q : 展着剤は必要ですか？

A : 「万田 31 号」を単用で使用される場合、特に必要ありませんが、他剤との混用の際など必要であればご使用ください。

(5) Q : 他の資材と混用する場合に注意することはありますか？

A : 小規模な面積で問題が起きないか試用してみてください。

真夏の日中の高温時には、避けた方がよいでしょう。

それぞれの希釈倍率を守ってください。

農薬等では、その使用基準に従ってください。

混用の手順は、まず所定濃度の「万田 31 号」希釈液を作り、その後に薬剤等を加えてください。

5. 保存

(1) Q : 開封後はどの位の期間保存できますか？

A : 開封後は直射日光を避け、冷暗所で保管すると長期間（2 年でも 3 年でも）使用できますが、なるべく早く使用してください。

(2) Q : 希釈した液は保存ができますか？

A : 希釈した液での長期保存はできません。できるだけその日（又は次の日）のうちに使い切るようにしてください。